

受賞者氏名	新谷 優	
所属	GIS	
受賞年月日	2021年10月	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	日本心理学会	
受賞名	国際賞 奨励賞	

受賞(研究)内容詳細	<p>国際賞奨励賞は、日本心理学会が「国際的に優れた業績を持つ中堅・若手心理学者」に与えられる賞です。どれか一つの研究が評価されたのではなく、これまでの業績全体に対する賞とのことです。審査員の先生方には、受賞の理由として以下のコメントをいただきました。自分で書くのは恥ずかしいので、そのまま引用させていただきます。「新谷 優氏は、思いやり目標や甘え、自尊心等々の社会心理学の幅広いテーマについて、時には実験的手法、また時には調査手法と目的に応じて様々な研究方法を用い研究を行われている。またテーマは様々であるが、人と他者との関係の中でのウェルビーイングというところが共通しており、広い視野を持ちながらも一貫した目的で研究を続けられており、また利用されている研究手法も様々であるが、確実に諸手法を自分のものとして研究されていることが高く評価できる。国内研究機関に所属後の海外雑誌単著論文も存在し、所属学部に大学院がなく大学院生と共同研究ができない中でも、ネットワークを形成しながら研究活動をしっかりと続けられ、また国際誌での編集委員を含む国内外の諸学会等で活躍をされている。Psychological Science, Journal of Research in Personality, Personality and Individual Difference, Journal of Cross-Cultural Psychology など著名雑誌に掲載された優れた研究業績はもちろんのこと、これらの活動は国際賞奨励賞受賞に値し、今後の活躍が期待される。」</p> <p>私の研究は、どれも自分の至らなさ、弱さが発端になっています。失敗をすると落ち込んでしまう自分が嫌で、どうすれば人は失敗をバネに学び成長していけるのかを研究しました。人に頼りたいのに頼れない自分が不憫で、大人の甘えが対人関係をいかに促進し、新しい環境への適応を助長するかについて研究しました。他者の評価を気にしてばかりいることが苦しくて、自己価値を確認することよりも、他者に思いやりをもつことが自他ともにより良く生きるための方法であることを見出しました。私はほとんどの研究で、日本とアメリカの二カ国でデータを集め、文化間での比較を行っています。比較文化の手法を取る研究は、文化差を研究ネタとするものがほとんどですが、私の研究は逆に、文化差がないことを研究のネタとしています。日本人とアメリカ人の心理的な機能には様々な文化差が報告されていますが、私が抱えているような悩みは、日本人に限らず、異なった文化の人と同じように抱えていることを明らかにしました。文化差がないということも、重要な知見だと考えています。</p> <p>GISの学生は常に世界に目を向けています。世界を舞台に活躍するべく、切磋琢磨しています。今回の受賞では、私の研究が国際的に貢献できたことを評価いただけたことが、GISの教員として何より嬉しく思います。奨励賞は、「よくやった」というよりも、「もっと励げめ」という賞だと理解しています。日本の心理学の国際化に向けて、さらに貢献できるよう励みたいと思います。</p>
------------	--